

今期業況天気図

今期業況天気図

期間：令和7年1月～3月（売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較）

全業種総合の天気図は「小雨」で、総合業況DIは▲24と、前期▲24と同じであった。
業種別では、小売業・卸売業が▲24（前期差16ポイント増）となり、大幅に改善した。建設業は▲18（前期差6ポイント増）で小幅の改善である。飲食業・サービス業は▲26（前期差5ポイント減）と製造業は▲24（前期差6ポイント減）と小幅に悪化した。
建設業と小売業は前期から悪化の傾向が続いているが、やや持ち直した。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲10	▲8	▲9	▲8	▲13
採算	▲25	▲24	▲20	▲22	▲29
仕入単価	▲65	▲70	▲76	▲73	▲55
販売単価	16	17	14	31	10
従業員	24	14	34	22	27
資金繰り	▲18	▲22	▲14	▲18	▲19
今期業況 （総合判断）	▲24	▲24	▲18	▲24	▲26
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					景観観測調査
快晴 DI値 31以上	晴れ DI値 30～11	薄曇り DI値 10～▲10	小雨 DI値 ▲11～▲30	雨 DI値 ▲31以下	<<景観観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値（DI値）を用いる。

参考）今期業況天気図の推移

	全産業	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
3四半期前 令和6年4月～ 6月期					
2四半期前 令和6年7月～ 9月期					
1四半期前 令和6年10月～ 12月期					
今期 令和7年1月～ 3月期					

今期業況天気図

今期業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

期間:令和7年1月～3月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

小規模事業者のみの全業種総合のDIは▲28(前期差2ポイント増)で天気図は「小雨」。小売業・卸売業は▲38(前期差15ポイント増)で大幅に改善した。飲食業・サービス業は▲28(前期差3ポイント増)に改善した。建設業は▲21(前期差6ポイント減)、製造業は▲31(前期差9ポイント減)に悪化した。改善傾向にあるが、小売業・卸売業の不調が続いている。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲18	▲15	▲12	▲28	▲21
採算	▲27	▲26	▲19	▲36	▲31
仕入単価	▲65	▲70	▲75	▲70	▲53
販売単価	8	10	10	14	5
従業員	19	15	29	10	17
資金繰り	▲23	▲29	▲16	▲30	▲21
今期業況(総合判断)	▲28	▲31	▲21	▲38	▲28
今期業況 天気図					

今期業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

期間:令和7年1月～3月(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・今期業況のDI値は前年同期との比較)

全業種総合のDI値は▲17(前期差5ポイント減)と若干の悪化であった。天気図は「小雨」のみである。

小売業・卸売業は▲12(前期差13ポイント増)と大きく改善した。建設業は▲4(前期差4ポイント増)と改善が見られる。製造業は▲12(前期差1ポイント減)で若干の悪化であった。飲食業・サービス業は▲24(前期差15ポイント減)で大幅に悪化した。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	3	3	9	8	▲1
採算	▲21	▲20	▲26	▲10	▲25
仕入単価	▲67	▲70	▲83	▲76	▲57
販売単価	27	28	35	46	17
従業員	33	13	61	32	39
資金繰り	▲11	▲10	0	▲8	▲15
今期業況(総合判断)	▲17	▲12	▲4	▲12	▲24
今期業況 天気図					

業況天気図凡例					<<景観観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
 DI値 31以上	 DI値 30～11	 DI値 10～▲10	 DI値 ▲11～▲30	 DI値 ▲31以下	

次期見通し天気図

次期見通し業況天気図

令和7年4月～6月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

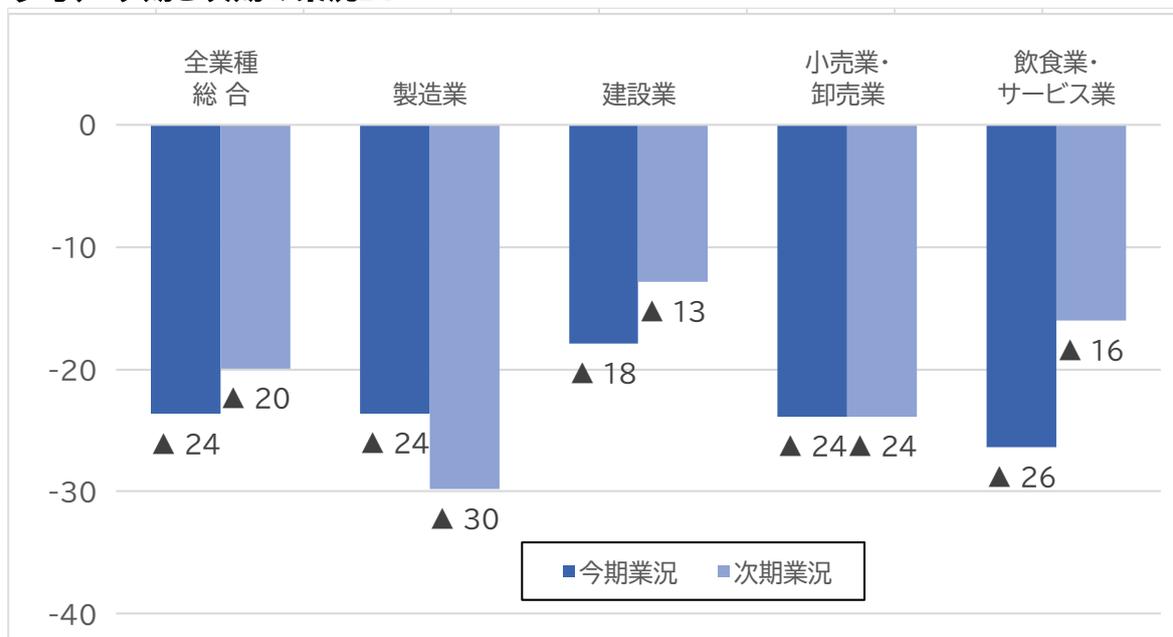
全産業の次期見通しの天気図は、▲20(今期差4ポイント増)で、天気図は「小雨」の見込み。

産業別にみると、飲食業・サービス業は▲16(今期差10ポイント増)、建設業は▲13(今期差5ポイント増)と回復が見込まれている。小売業・卸売業は▲24(今期差±0ポイント)と同じである。一方、製造業は▲30(今期差6ポイント減)と小幅な悪化が見込まれている。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲7	▲16	▲5	▲8	▲2
採算	▲16	▲19	▲14	▲24	▲12
仕入単価	▲53	▲56	▲65	▲54	▲46
販売単価	15	10	20	28	11
従業員	23	12	32	23	24
資金繰り	▲15	▲20	▲12	▲13	▲14
次期業況 (総合判断)	▲20	▲30	▲13	▲24	▲16
次期業況 天気図					

業況天気図凡例					景観観測調査
快晴  DI値 31以上	晴れ  DI値 30~11	薄曇り  DI値 10~▲10	小雨  DI値 ▲11~▲30	雨  DI値 ▲31以下	<<景観観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い／悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。

参考) 今期と次期の業況DI



次期見通し業況天気図

次期見通し業況天気図(小規模事業者)

(商業・サービス業従業員5名以下、その他の業種20名以下)

令和7年4月～6月見込(売上・採算・資金繰り・仕入単価・販売単価・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは▲24(今期差4ポイント増)で、天気図は「小雨」の見込み。

産業別にみると、飲食業・サービス業は▲16(今期差12ポイント増)と大幅な改善の見込み。

小売業・卸売業は▲30(今期差8ポイント増)、建設業は▲16(今期差5ポイント増)と増加の予測。製造業は▲41(今期差10ポイント減)と大幅な悪化の予想である。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	▲ 11	▲ 31	▲ 8	▲ 16	0
採算	▲ 17	▲ 27	▲ 15	▲ 28	▲ 9
仕入単価	▲ 52	▲ 57	▲ 63	▲ 46	▲ 44
販売単価	11	6	18	18	6
従業員	17	12	26	12	16
資金繰り	▲ 20	▲ 31	▲ 14	▲ 22	▲ 18
次期業況(総合判断)	▲ 24	▲ 41	▲ 16	▲ 30	▲ 16
次期業況 天気図					

次期見通し業況天気図(小規模事業者以外の中小企業)

令和7年4月～6月見込(売上・採算・仕入単価・販売単価・資金繰り・従業員・次期業況DI値は今期との比較)

全産業の次期見通しは、▲14(今期差3ポイント増)で、天気図は「小雨」の予測。

産業別にみると、建設業は4(今期差8ポイント増)、飲食業・サービス業は▲17(今期差7ポイント増)と回復する見込みである。小売業・卸売業は▲19(今期差7ポイント減)と若干の悪化が見込まれる。製造業は▲12(今期差±0ポイント)と横ばいである。

	全業種 総合	製造業	建設業	小売業 卸売業	飲食業 サービス業
売上	1	9	9	▲ 2	▲ 4
採算	▲ 14	▲ 6	▲ 9	▲ 20	▲ 17
仕入単価	▲ 55	▲ 54	▲ 74	▲ 61	▲ 49
販売単価	23	16	30	37	18
従業員	31	13	61	32	35
資金繰り	▲ 6	▲ 1	▲ 4	▲ 5	▲ 9
次期業況(総合判断)	▲ 14	▲ 12	4	▲ 19	▲ 17
次期業況 天気図					

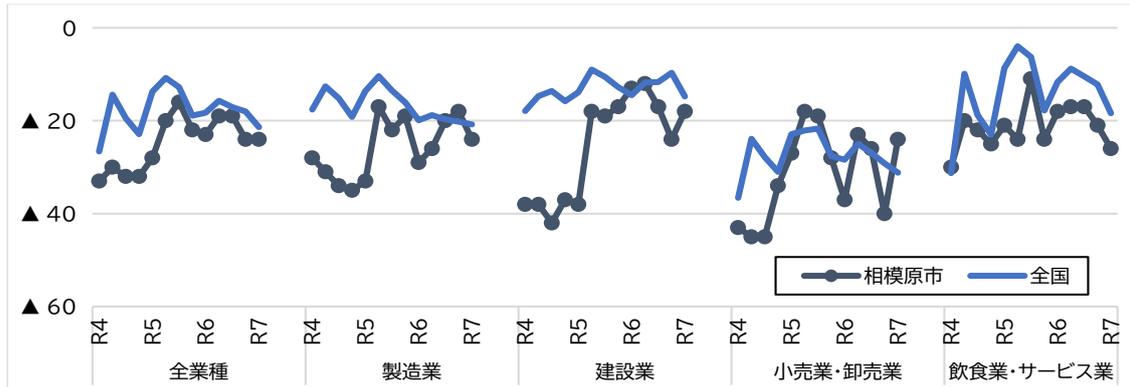
業況天気図凡例					<<景気観測調査>> 前年度同時期との景況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。 「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。
快晴 DI値 31以上	晴れ DI値 30～11	薄曇り DI値 10～▲10	小雨 DI値 ▲11～▲30	雨 DI値 ▲31以下	

業況DIの推移

業況DI(前年同期比)の推移

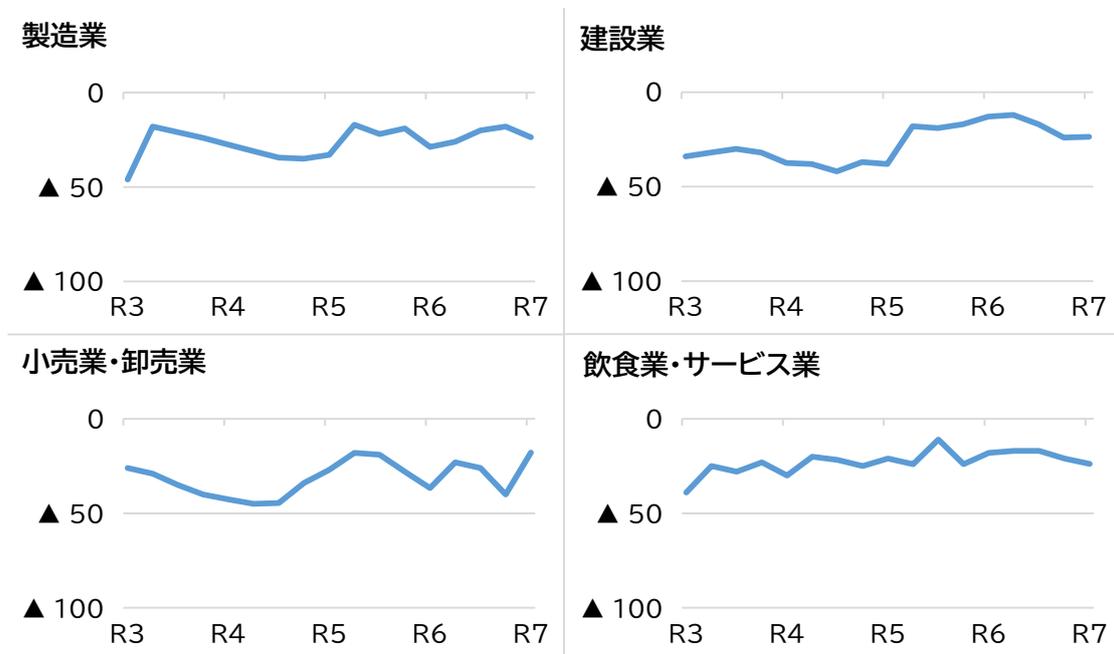
全産業の業況DIは、今期は▲24(前期差±0ポイント)で、横ばいだった。
 産業別にみると、小売業・卸売業は▲24と大幅に改善。建設業は▲18とやや改善した。
 飲食業・サービス業は▲26、製造業は▲24と前期からやや悪化した。
 全国と比較すると小売業・卸売業は全国を上回っており、飲食業・サービス業は全国よりも低い水準にとどまっている。

(令和4年1-3月期～令和7年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「業況判断DI」を使用。
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
 ※業況DIについて、当所では「総合判断」、中小企業庁は「業況(自社)」を質問項目としている

参考)業況DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



業況DI(特徴的なトピックス)

産業別に寄せられた特徴的なトピックスは以下のとおりである。

【製造業】

- ・コロナ前とは比較になりませんが、少し回復しているような気がします。【治工具・試作・精密部品】
- ・デジタル化の影響が顕著。【総合印刷出版】
- ・各種メーカーのEVに対しての動きが鈍化してきている。HEV、PHEV向け設備投資が増えてきたため、当社の受注も増えてきている。【高周波応用装置の製造販売】
- ・当社の主な顧客の業界は景気回復しているものの、部材の在庫調整が長期化して、新規の発注が大幅に減少している。4月～6月には在庫調整が解消され新規発注が出ると予想する。【電子部品の製造販売】

【建設業】

- ・仕入れ先の高齢化などによる廃業などが増えていると感じます。【管工事業】
- ・ガソリン高騰、仕入高騰、家が売れない。【屋根工事】
- ・仕入れ費の上昇と施工単価への転嫁のタイミングが難しい。令和7年1月から2月の発注控えが感じられる。【塗装工事業 防水工事業など】
- ・インバウンドの回復及び投資抑制の反動もあり投資意欲は旺盛な反面、建設業界の深刻な人出不足は継続しており、計画的・戦略的リソースマネジメントが肝要。労務逼迫、資機材コスト動向を注視しつつ、更なる利益改善に取り組む必要がある。デジタル活用、人材育成、協力会社との連携など中長期を見据えた現場力の強化が必要。【土木、建築工事請負業・不動産事業】

【小売業・卸売業】

- ・借入金の金融利息の上昇。【木材、建材】
- ・SNSによる集客などの競争の激化。【小売業】
- ・老人世帯の増加。子供が地元をはなれて空き家になる。【LPガス、灯油、住宅リフォーム】
- ・物価の上昇スピードが早く、お客様の買換えが進む。【衣食住】

【飲食業・サービス業】

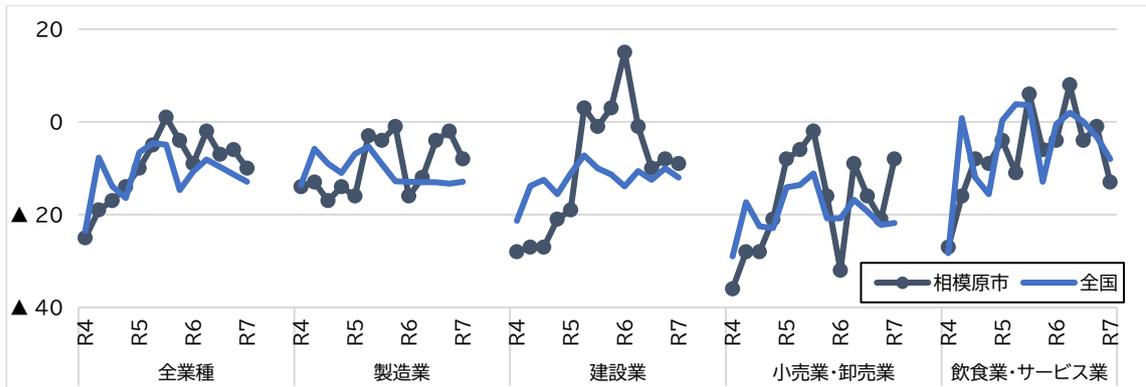
- ・特に感じているのはやはり物価高騰の影響。お米が特にひどい。【焼肉、韓国料理】
- ・来店サイクルが長期になった。高齢者の客が来店されなくなった。【美容業】
- ・最低賃金の上昇がとてつらいです。【服飾リフォーム】
- ・金額が上がることに(顧客が)納得してくれている。【鍼灸院】
- ・男性の求人応募数が少ない。【障害福祉サービス】

売上DI(前年同期比)の推移

全産業の売上DIは、▲10(前期差4ポイント減)と、やや悪化した。
 産業別にみると、製造業が▲8、建設業が▲9、飲食業・サービス業が▲13で前期から低下した。小売業・卸売業は▲8で前期から大きく改善した。

全国と比較すると、小売業・卸売業は全国より好調となっている。飲食業・サービス業は全国よりやや低い。

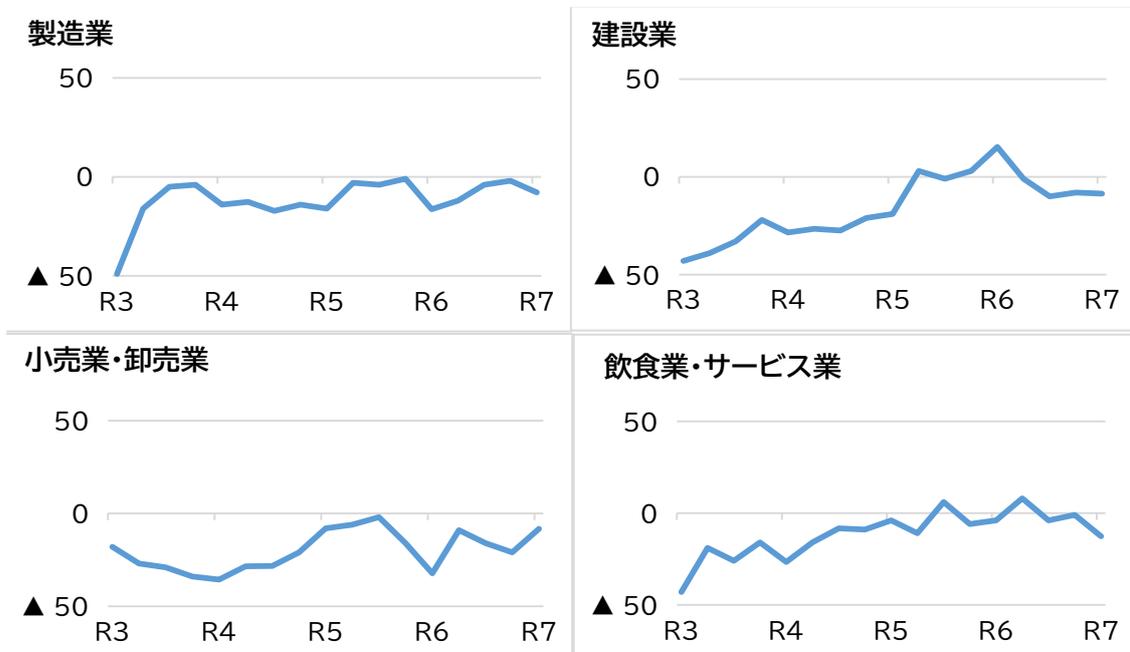
(令和4年1-3月期～令和7年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「売上額DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

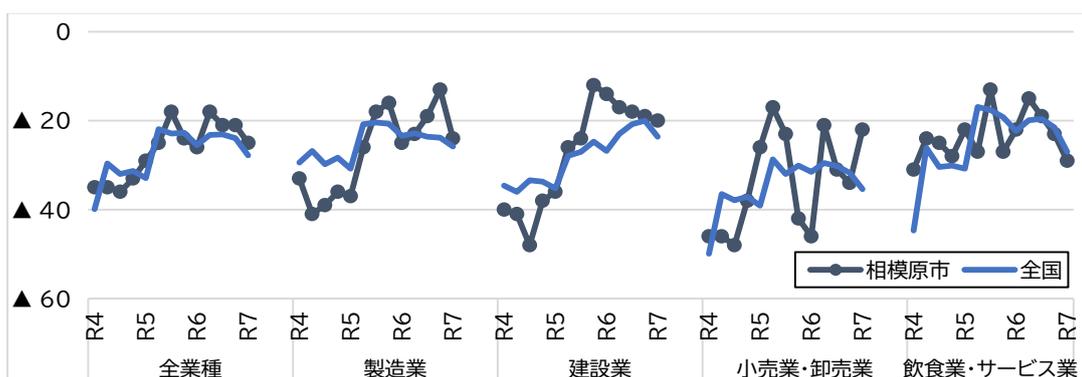
参考) 売上DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



採算DI(前年同期比)の推移

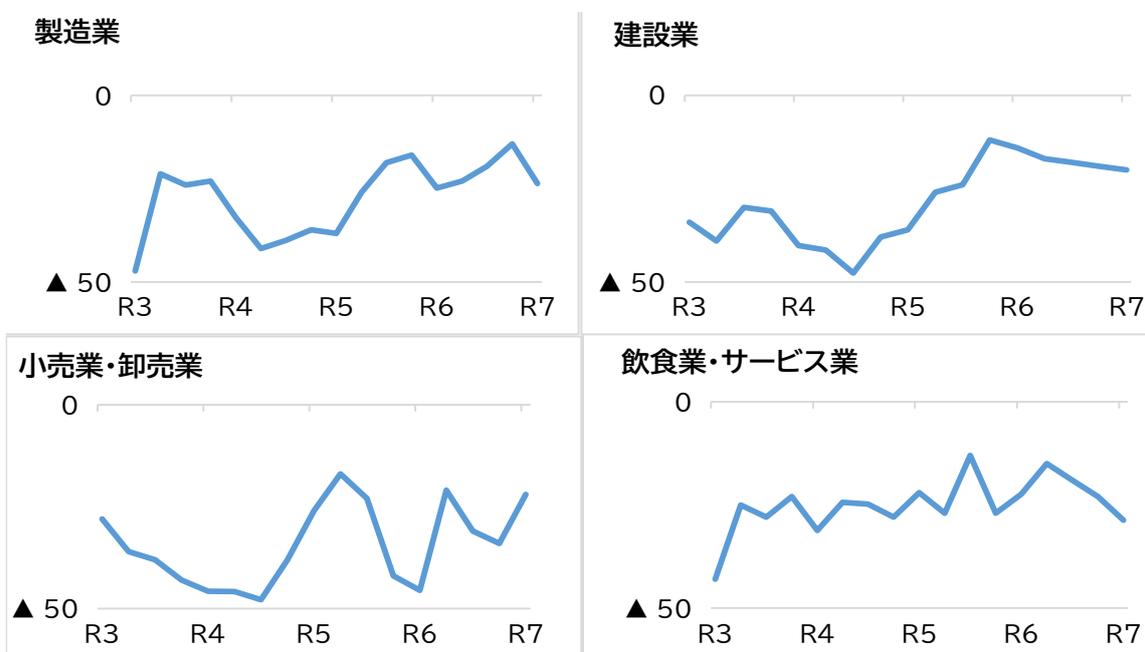
全産業の採算DIは、▲25(前期差4ポイント減)で、やや悪化した。
 産業別にみると、小売業・卸売業は▲22と大きく改善した。建設業は▲20で前期並み。
 飲食業・サービス業は▲29、製造業が▲24と前期より悪化した。
 産業別に今期の数値を全国値と比較すると、小売業・卸売業が売上DI同様、好調である。

(令和4年1-3月期～令和7年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
 ※採算DIについて、当所では「採算」、中小企業庁は「経常利益」を質問項目としている

参考) 採算DI(前年同期比)の長期推移(業種別)

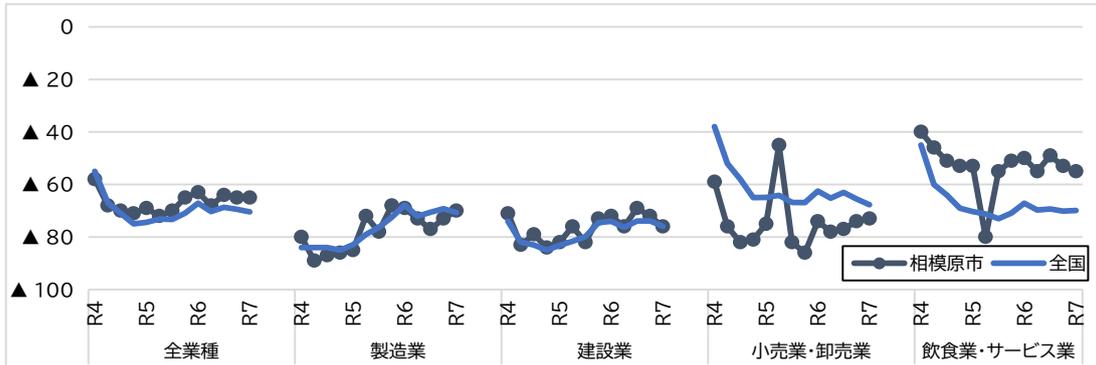


仕入単価DIの推移

仕入単価DI(前年同期比)の推移

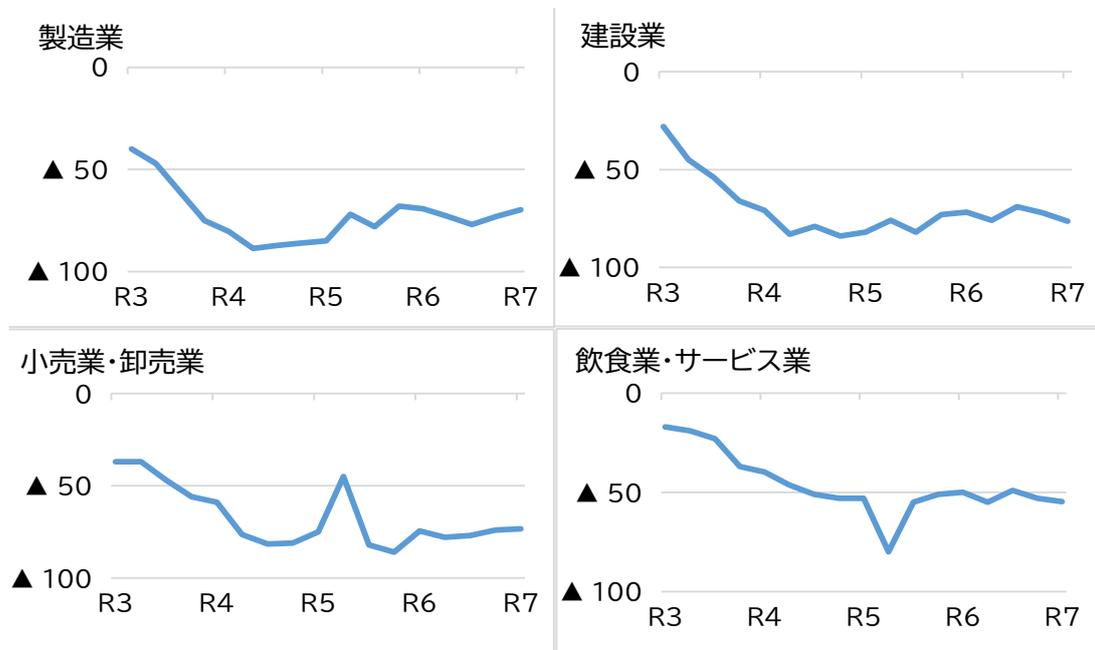
全産業の仕入単価DIは▲65(前期差±0ポイント)で、変わらなかった。
 産業別にみると、製造業が▲70、小売業・卸売業は▲73、飲食業・サービス業が▲55、
 建設業は▲76とほぼ横ばいであった。
 全国と比較すると、小売業・卸売業は全国より悪く、飲食業・サービス業は状況が良い。

(令和4年1-3月期～令和7年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「原材料・商品仕入単価DI」を使用。
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
 ※仕入単価DIについて、当所では「DI=下落—上昇、中小企業庁は「上昇—低下」で算出。
 比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考) 仕入単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



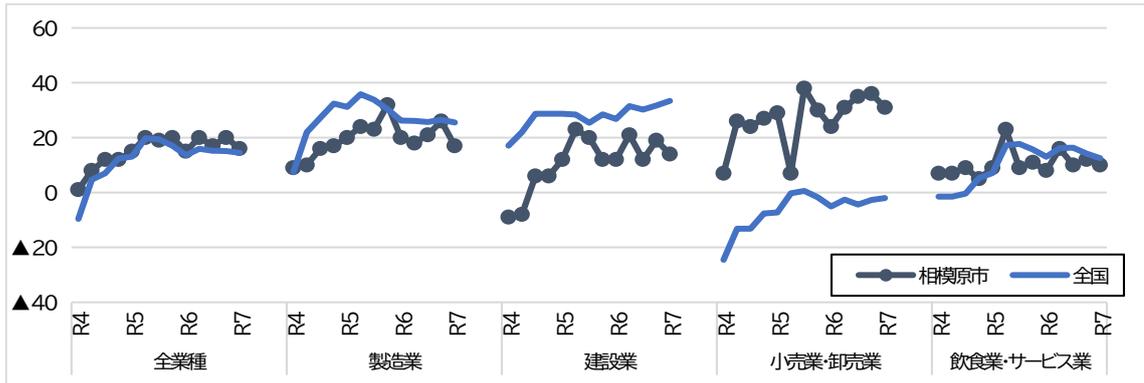
販売単価DIの推移

販売単価DI(前年同期比)の推移

全産業の販売単価DIは、16(前期差4ポイント減)と、若干の悪化であった。
産業別にみると、飲食業・サービス業は10、小売業・卸売業が31、建設業は14、製造業は17でそれぞれやや悪化している。

全国値と比較すると、建設業は全国よりも低い水準が続いている。小売業・卸売業は、全国よりもかなり高い状態が続く。

(令和4年1-3月期～令和7年1-3月期、前年同期比)

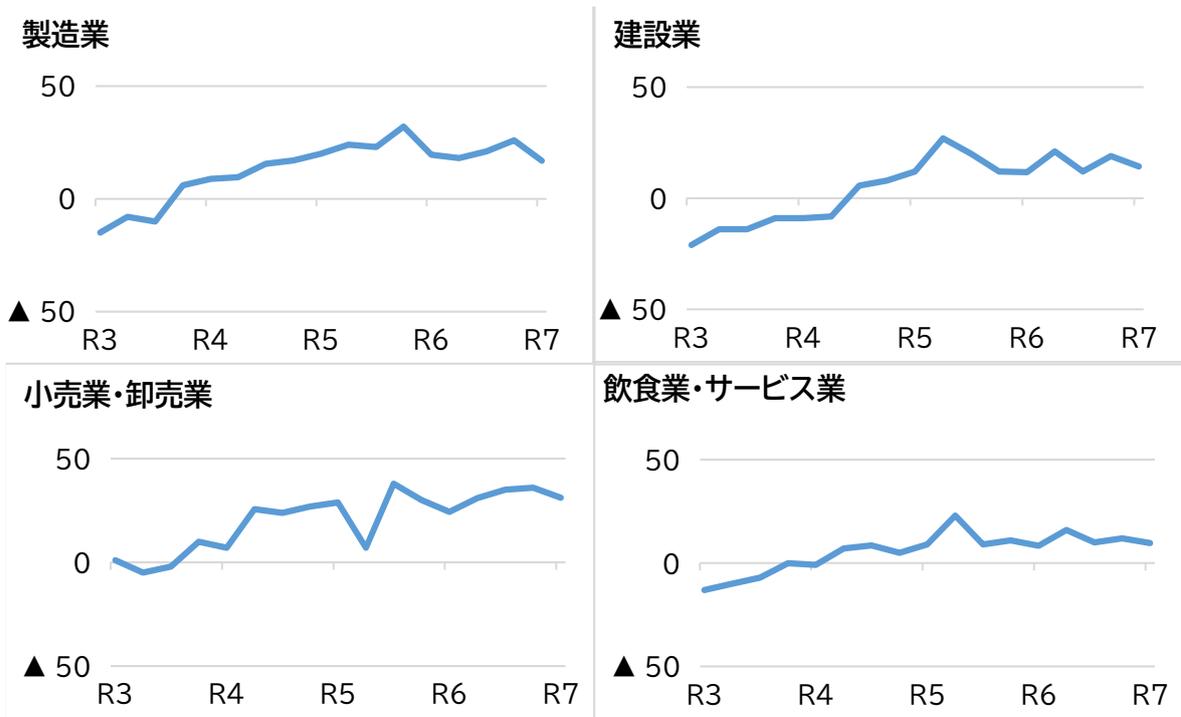


※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「販売単価・客単価DI」を使用。

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

※建設業については、全国値は日本商工会議所「早期景気観測商工会議所LOBO/建設業令和7年3月」分類の値を使用

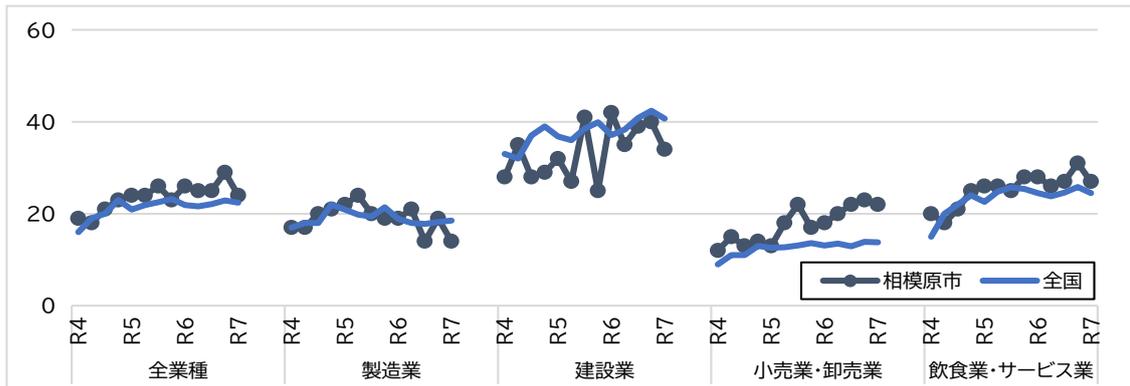
参考) 販売単価DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



従業員DI(前年同期比)の推移

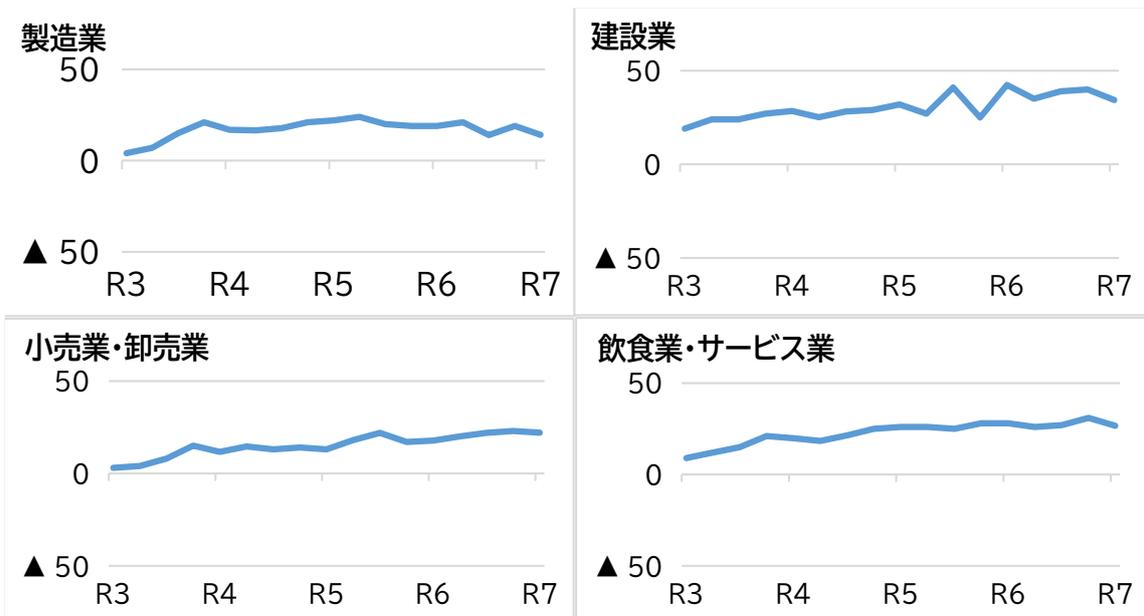
全産業の従業員DIは、24(前期差5ポイント減)で、前期からやや悪化した。
 産業別では、小売業・卸売業が22、飲食業・サービス業は27、製造業は14、建設業は34と
 いずれも前期から小幅の悪化。全業種で人手不足感の高まりが続いている。
 産業別に今期の数値を全国値と比較すると、特に小売業・卸売業で本市の方が、人手不足
 感が高い。製造業と建設業は本市の方が低めである。

(令和4年1-3月期～令和7年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用、「従業員数過不足DI」を使用。
 ※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用
 ※従業員DIについて、当所では「前年同期比」、中小企業庁は「今期の水準(過去との比較ではない)」を調査
 ※従業員DIについて、当所では「DI=不足ー過剰、中小企業庁は「過剰ー不足」で算出。
 比較にあたっては、全国値の符号を反転させている。

参考) 従業員DI(前年同期比)の長期推移(業種別)



資金繰りDIの推移

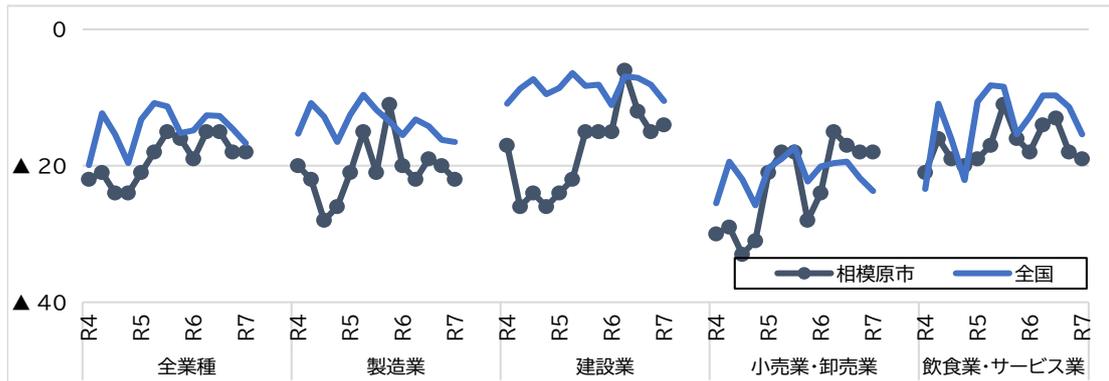
資金繰りDI(前年同期比)の推移

全産業の資金繰りDIは、▲18(前期差±0ポイント)で、横ばいだった。

産業別にみると、建設業は▲14、小売業・卸売業は▲18、飲食業・サービス業は▲19で前期並み。製造業は▲22で小幅の減少だった。

産業別に当市の今期の数値を全国値と比較すると、小売業・卸売業は当市の方がかなり良い。その他の業種では、当市のほうが全国よりやや悪い状況となっている。

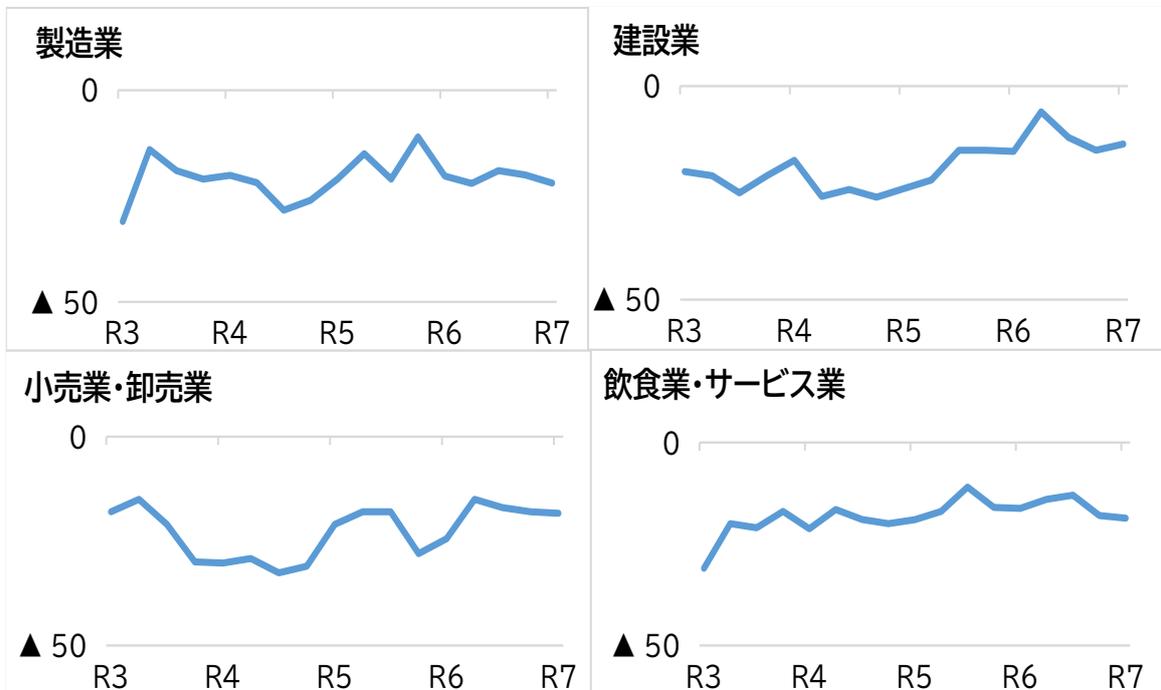
(令和4年1-3月期～令和7年1-3月期、前年同期比)



※全国値は、中小企業庁「中小企業景況調査報告書」より引用

※小売業・卸売業について全国値は「小売業」分類、飲食業・サービス業について全国値は「サービス業」の分類の値を使用

参考) 資金繰りDI(前年同期比)の長期推移(業種別)



集計表(景気観測調査)

			今期(R7.1~R7.3)				次期見通し(R7.4~R7.6)			
			売上:増加 採算:資金、総 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値	売上:増加 採算:資金、総 仕入:下落 販売:上昇 従業員:不足	不変	売上:減少 採算:資金、総 仕入:上昇 販売:下落 従業員:過剰	合計/DI値
製造業	売上	サプノ数	53	58	67	178	39	72	67	178
		構成比	30	33	38	▲ 8	22	40	38	▲ 16
	採算	サプノ数	34	68	76	178	25	95	58	178
		構成比	19	38	43	▲ 24	14	53	33	▲ 19
	仕入単価	サプノ数	3	48	127	178	2	75	101	178
		構成比	2	27	71	▲ 70	1	42	57	▲ 56
	販売単価	サプノ数	45	118	15	178	34	128	16	178
		構成比	25	66	8	17	19	72	9	10
	従業員	サプノ数	35	133	10	178	34	132	12	178
		構成比	20	75	6	14	19	74	7	12
	資金繰り	サプノ数	13	113	52	178	15	113	50	178
		構成比	7	63	29	▲ 22	8	63	28	▲ 20
	業況	サプノ数	24	88	66	178	17	91	70	178
		構成比	13	49	37	▲ 24	10	51	39	▲ 30
建設業	売上	サプノ数	33	62	45	140	31	71	38	140
		構成比	24	44	32	▲ 9	22	51	27	▲ 5
	採算	サプノ数	22	68	50	140	21	79	40	140
		構成比	16	49	36	▲ 20	15	56	29	▲ 14
	仕入単価	サプノ数	1	31	108	140	1	47	92	140
		構成比	1	22	77	▲ 76	1	34	66	▲ 65
	販売単価	サプノ数	37	86	17	140	42	84	14	140
		構成比	26	61	12	14	30	60	10	20
	従業員	サプノ数	52	84	4	140	51	83	6	140
		構成比	37	60	3	34	36	59	4	32
	資金繰り	サプノ数	6	109	25	140	5	113	22	140
		構成比	4	78	18	▲ 14	4	81	16	▲ 12
	業況	サプノ数	14	87	39	140	16	90	34	140
		構成比	10	62	28	▲ 18	11	64	24	▲ 13
小売業・卸売業	売上	サプノ数	30	40	39	109	23	54	32	109
		構成比	28	37	36	▲ 8	21	50	29	▲ 8
	採算	サプノ数	15	55	39	109	11	61	37	109
		構成比	14	50	36	▲ 22	10	56	34	▲ 24
	仕入単価	サプノ数	3	23	83	109	3	44	62	109
		構成比	3	21	76	▲ 73	3	40	57	▲ 54
	販売単価	サプノ数	48	47	14	109	40	60	9	109
		構成比	44	43	13	31	37	55	8	28
	従業員	サプノ数	28	77	4	109	28	78	3	109
		構成比	26	71	4	22	26	72	3	23
	資金繰り	サプノ数	8	73	28	109	7	81	21	109
		構成比	7	67	26	▲ 18	6	74	19	▲ 13
	業況	サプノ数	10	63	36	109	8	67	34	109
		構成比	9	58	33	▲ 24	7	61	31	▲ 24
飲食業・サービス業	売上	サプノ数	57	148	95	300	70	154	76	300
		構成比	19	49	32	▲ 13	23	51	25	▲ 2
	採算	サプノ数	27	160	113	300	50	163	87	300
		構成比	9	53	38	▲ 29	17	54	29	▲ 12
	仕入単価	サプノ数	2	132	166	300	0	162	138	300
		構成比	1	44	55	▲ 55	0	54	46	▲ 46
	販売単価	サプノ数	57	215	28	300	56	222	22	300
		構成比	19	72	9	10	19	74	7	11
	従業員	サプノ数	87	206	7	300	82	208	10	300
		構成比	29	69	2	27	27	69	3	24
	資金繰り	サプノ数	14	216	70	300	21	215	64	300
		構成比	5	72	23	▲ 19	7	72	21	▲ 14
	業況	サプノ数	29	163	108	300	42	168	90	300
		構成比	10	54	36	▲ 26	14	56	30	▲ 16
全業種総合	売上	サプノ数	173	308	246	727	163	351	213	727
		構成比	24	42	34	▲ 10	22	48	29	▲ 7
	採算	サプノ数	98	351	278	727	107	398	222	727
		構成比	13	48	38	▲ 25	15	55	31	▲ 16
	仕入単価	サプノ数	9	234	484	727	6	328	393	727
		構成比	1	32	67	▲ 65	1	45	54	▲ 53
	販売単価	サプノ数	187	466	74	727	172	494	61	727
		構成比	26	64	10	16	24	68	8	15
	従業員	サプノ数	202	500	25	727	195	501	31	727
		構成比	28	69	3	24	27	69	4	23
	資金繰り	サプノ数	41	511	175	727	48	522	157	727
		構成比	6	70	24	▲ 18	7	72	22	▲ 15
	業況	サプノ数	77	401	249	727	83	416	228	727
		構成比	11	55	34	▲ 24	11	57	31	▲ 20

集計表(トピックス)

製造業
先行き不透明感から設備投資予定の先送りがありそう。【自動化、省人化設備の制御設計、制御盤製作、機内配線工事】
部材単価の安定、納期短縮、加工費等の安定。半導体不足の解消。【工業用自動機の開発・製造・販売】
原材料(食材)、ガソリン、人件費の上昇。【弁当 惣菜】
受注の減少。【精密板金加工】
今期は、注文数が少なく、中国生産も12月春節の長期休みが厳しい状況です。【不織布製品の製造販売】
コロナ前とは比較になりませんが、少し回復しているような気がします。【治工具・試作・精密部品】
設備投資の減少や長引く不景気なので、製造業界に活気がなく受注量が増えない。【軸受】
材料費は上がる一方で原価低減はままならない。客先は販売状況から製造計画を見直し、仕事が減少している。世の中の「ゆるやかな景気回復」はまったく感じられない。【電子回路基板設計製造販売】
昨年との比較では売上は戻ってきているものの、黒字にはまだ遠い。【電気機械器具製造ワイヤーハーネス】
去年の12月の受注が少なかった分1月から3月の受注が増えました。トータルではあまり変わりません。作業員不足です。【制御盤製作、機械設備電気配線、一般電気工事】
得意先企業は下請け企業に対し相変わらず理屈も曖昧なコストダウンを要求してくる。得意先の技術のない机上の役員では自分の成果をコストダウンでしか作れないのが問題。【プラスチック加工】
先行き不透明感がまだ抜け出せない。年明けから先の受注が好転しているように思われるが、短納期受注が主なため、社会情勢等垣間見ると不安要素しかないのが気にかかる。【精密板金加工】
売上不振が継続中。【産業用モータ制御装置の製造・販売】
仕入材料値上げ。【各種コイル制作電源トランススイッチングトランス通信機用変成器】
設備投資をしたいが、売上が減少しているため先行投資ができない。【レーザー溶接ロボット保守、コンサルティング】
新規開発案件が減少方向。【受託開発設計及び製品の試作・少量生産】
ガソリン、電気代、家賃が上昇した。【省力化機器の設計製造】
受注が減少。【印刷】
産業機械の価格上昇の為の販売不振。【プラスチック押出成形用の引取機、切断機の製造販売、修理】
まだ開発特殊品の検証段階で、商品化が不十分のためPRもできず。【放射線測定検出材】
日産自動車悪化。【切削工具】
若い人材確保が難しくなっていると感じている。【医療機器製造・販売】
周りの状況など聞いても、4月以降に景気が上がる見込みが薄い感じがします。【自動車部品・建築資材・他金属板金】
米国の今後の動向。【自動車等のネジの製造販売】
補助金狙いでの引き合いが多数、本質的な需要の見極めができない。補助金頼みの景気対策は悪影響しかない。【食品加工機械製造販売】
仕入原価上昇、人材不足、外注増加による収益率が低下。グループ会社から親会社へ吸収されたことにより資金繰りは好転。【門型クレーン、天井クレーンの製造・レンタル・販売】
昨年より人手不足が解消されない。大口取引先のアメリカへの出荷が止まっていて受注が見込めない。大手が大きく賃金上げをしているが、弊社のような零細企業は大幅な賃金上げは不可能でそれにより、社員の転職動向が感じられるようになった。【工業塗装】
国内設備投資の失速感。【機械板金加工】
廃業が目立つ。【半導体部品、測定装置などの精密板金加工全般】
国内外景気観の悪さから受注が減少している。【精密露光用紫外線照射装置の設計、製造、販売】
燃料費の高騰による部品価格の上昇を売上金額にどこまで上積みできるかが不透明です。【制御盤の設計・製作、電気回路設計、ソフトウェア開発】
トランプが大統領になったのでどっちに転ぶかが全く不明。【板金加工物の製造販売】
電気部品や材料消耗材の高騰が頻繁すぎる。コロナ前と比べると2倍以上になっている。リピート品も毎回見積もりを取って価格改定しているので、都度お客様への説明も含め手間がかかる。【各種自動制御装置の設計、製作、工事等】
設備の老朽化による生産性の悪化にかかわる売上の減少。【軟質ウレタンフォーム加工及びウレタンチップフォーム製造加工】
トラックメーカーの製造台数減少。【トラックの荷台修理・架装】

物価上昇するが、受注価格は変わらない。【金属加工】
デジタル化の影響が顕著。【総合印刷出版】
好不況のギャップ、中小企業の負担増。【金属熱処理】
相変わらず価格転嫁は進まない。一方で製造原価は上がる一方。最近では世間の賃金上昇に伴って人材の確保もままならない。【金属表面処理(ショットブラストおよび塗装)】
雇用。【産業機器設計製造】
持続的な賃上げには毎年価格を上げていく必要があります。その労力だけで中小企業は疲弊してしまいます。いっそのこと法律で、企業間取引価格の一斉値上げを決めたいかがですか？【段ボール箱製造販売】
慢性的な人手不足、特に新卒、第二新卒に該当する20代の応募はゼロに等しい。【生コンクリート製造販売】
採算悪化傾向にあり、思い切った設備投資ができない。老朽化した設備を修理しながら使用しており、効率化の改善も難しい状況。【建設機械製品(シールド機、セグメントほか)】
原因不明の不景気。注文依頼の激減。【シャフト・ブラケット・ベアリングケース等】
加工部品は値上げをすると転注されるので出来ない。【作業工具製造、金属部品の販売】
新規事業が軌道に乗りはじめて来て、受注の予定が増えている。【発砲強化プラスチック製造業】
人手不足。【製造業】
売上の減少、経費の増加。【自動車部品、半導体等の部品加工】
気合／根性がない人が多い。やる気にみちあふれてほしい！【製造業】
コロナ禍より業界市場の低迷化が続いている(放送業界の設備投資減っている)。【業務用放送設備機器製造】
売上が不振(ライバル業者が増えた為)。【制御盤の製作やケーブル加工】
仕事量(注文数)が減っている。【金型プレス加工】
市場、同業他社が厳しい中、結果的に好決算であった。来期は大型案件が少なく、苦戦する予想。【金属製品製造業】
材料、消耗品の高騰。【精密板金】
仕事量(製造ボリューム)の激減価格競争(値下げ競争?)の過剰。【段ボール製函・紙器一式・包装資材販売 段ボール家具製造販売】
先行きの不透明さ、不安定感。【精密板金加工業】
客先(鉄道会社)の業績が好転し、受注も増えている。相変わらず部品の値上げも続いていて価格転嫁も引き続き実施して行く予定。【電鉄変電所の保守に必要な電気関係の計測装置】
中期を見据えた採用活動において、応募数が少ない現状。材料価格は上昇がとまらず、価格交渉に時間を要している。一部価格転嫁できていない製品もあり、供給責任との板挟みにあっている。【粘着製品の製造・販売粘着応用製品の企画・加工・販売】
好景気と不況の差が大きいこと。また今後の売上予測が困難と感ずること。【精密板金加工】
年初は受注量の減少を感じています。半導体も良い話ばかりではなくなってきた。トランプの影響が出てくるか心配。【精密機械設計・半導体製造装置設計支援】
賃上げが進むけれども、人件費の上昇がそれに伴わない。大手は幾分賃上げに前向きだが時間がかかる。その間キャッシュアウトが進む。中小企業は以前厳しい状況が続いている。【精密部品加工半導体、工作機械、ロボット向け部品加工製造業】
物価の高騰による賃金等の賃上げ。【精密部品加工治具設計製作】
極度の円安状態が続くと収益性の悪化が懸念される。【電子応用装置の設計・製造防犯機器の販売】
当社の主な顧客の業界は景気回復しているものの部材の在庫調整が長期化して、新規の発注が大幅に減少している。4月～6月には在庫調整が解消され新規発注が出ると予想する。【電子部品の製造販売】
不況。【キャンピングカー製造販売】
原材料高による顧客購買意欲の低下。【上水道継手・自動車部品・産業機械継手の旋盤加工】
現在出ている令和7年度の内示は今年度と比較して1%程度減少している状況であり、トランプ政権への変化や地政学リスクがでていると思慮されている。【自動車部品製造業】
短納期品が多い。人手不足。【金属精密板金業】
売上不振と仕入高騰。【金属製品塗装及びメッキ】
賃金を増加しても、それ以上に材料費や税金が増加している。【段ボール製造及び販売】
生産にかかわる全ての物が価格上昇しているが全てを売上価格に転嫁できていない。【プラスチック加工】
米国の新政権が展開する数々の政策により経済的な悪影響が大いに懸念される。【空圧制御バルブ】単価

仕入の上昇を価格に転嫁することができず、出来たとしても、他会社が安く提案し商品を切られる。【製造業】
人件費増加。【電気機械器具製造】
受発注がこれから増加していくのか。【一般産業用機械部品の製造・組立 自動車部品の製造】
従業員の不足、採用が難しくなっている。【医療機器・産業用機械の設計・製造】
トランプ関税の影響でメキシコ、中国企業への売上低下を懸念している。【インサーキットテスト、インサーキットテストフィクスチャ、ファンクションテスト】
昇給分の転嫁が出来ない。【角型紙管、紙アングル、板紙等製造販売 シリカゲル等吸着剤加工販売】
雇用が難しいこと(とくに若い世代)。【紙製品化成品】
米中関係の動向。【パッシブ除振台・アクティブ除振台・防振装置・各種防振ゴム・制振材・吸音材・除振工事・防振工事・制振工事・除振コンサルタント・振動測定及び解析】
中途採用大苦戦。【金属製品製造】
今後の自動車産業の状況(トランプの影響)。【ねじ、ボルト製造】
各種メーカーが、EVに対して鈍化してきている。HEV、PHEV向け設備投資が増えてきた為、当社の受注も増えてきている。【高周波応用装置の製造販売】
購入部品の値上げ。【マグネチックバルブ、グロープラグなど】
従業員の賃上げ必須は理解するが原資が不安。技術者の採用難。業容拡大と新規事業の立ち上げ。【事務機・新聞店・印刷産業向け後加工機の設計開発・製造】
9月～12月にかけて化粧品メーカーの業績低迷の発表が続き、受注が著しく減少していたが、1月後半より回復し受注予定も多い。人件費の割合が高く、賃上げ分を回収できていず採算は悪化しているが、見積の見直しを再交渉の予定。【各種製品の加工、検査及び包装】
諸経費の増加。【自動包装機の製造・販売】
営業部門の新卒採用が困難である。【臨床検査薬の開発、製造、販売】
受注量の増加、人員不足。【電力機器、配電機器、免振・制振・制音デバイス】

建設業
仕入単価だけが待たなしに上がっている。【内装工事業】
何もかも値上がりで大変です、仕事量も減りました。【リフォーム業】
商品購入時に日数がかかり、単価の急上昇で、見積業務にも支障をきたす。外注、協力業者共、人手不足を技術的にも不足。働き方改革で全てが遅い。【管工事業】
消費動向が依然として慎重な傾向にあると感じている。【リフォーム】
インフレ。【リフォーム】
仕入単価の上昇。【外構工事】
最低賃金の上昇によりパートスタッフの働き控えが起きており困っている。【エクステリア商品施工販売】
新規雇用の、非常に難しく、売上不振により固定費が負担になる。仕事はあるが、従業員不足で、受注が難しい状況。【移動体基地局】
社会全体の気持ちが好景気にならない、行政への不安も影響していると感じる。【建物の屋根・雨樋・外壁】
仕入れ先の高齢などによる廃業などが増えていると感じます。【管工事業】
深刻な従業員不足。【給排水衛生設備工事 空調換気設備工事】
インフレによる個人消費低迷。【カーテン】
工事見積もり依頼は多いが受注率は低い。【リフォーム】
受注先が減少、見積もり依頼も減っている。【重軽量鉄骨加工 建築金物加工製造 現場取り付け】
景気の悪化。【リフォーム業】
仕入単価の上昇。【電気工事】
円高にて材料の高騰、働き方改革にて賃金上昇 労働時間の縮小で現場が終わらない。【管工事業】
今の段階では、予想がわかりません。【外構工事 土木工事】
材料費の高騰に危機感を感じています。販売値上げ交渉が難しい。【住宅基礎工事】
従業員不足。【原状回復リフォーム】
大きな物件が減少しつつも、受注は切れ目なく有りますが先行不明です。【鉄骨建築加工業】
物価高で個人客様の見合わせがある現状です。【建築塗装、防水他】

物価高に対して、従業員への支払いを好転させない事が不安です。【内装工事】
資材の仕入れ単価上昇、新築物件の減少。【戸建て住宅の外壁工事】
材料高騰。【管工事】
客先により一部回収遅延。【クリーンルーム】
従業員不足。【建設業】
人手不測の為受注を断っている状態です。【鉄道の建物、駅構内や沿線での電気設備工事】
仕入れ費の上昇と施工単価への転嫁のタイミングが難しい。令和7年1月から2月の発注控えが感じられる。【塗装工事業 防水工事業など】
とにかく人が集まらない、現場の人手不足は深刻。【看板・金物製作・電気工事】
・民間工事にはインフラライドが無いため見積の時期によっては、仕入単価が上昇し予定していた利益には至らない。・資格を含めメイン担当のできる人員が限られているため、それ以上の受注ができない。機会損失が多くなっている。【電気設備工事】
労働人口の減少で、零細企業は益々人材の確保が困難になっている。大手企業と人材を取り合うためには給与、休日の増加や残業の減少が必要だが、その余裕は零細企業には無い。【ポンプ、送風機の点検、修理、オーバーホール、取替】
燃料の価格上昇 円安による不景気等に要る消費の減少など全体に活気のない新年のスタートになった感じ。【建設業】
従業員や下請業者の不足。【土木工事】
仕入れ単価の上昇。【管工事設備業】
人手不足。【電気工事業】
売上は昨年同期の半分まで落ち込んだ。いよいよである。【造園工事業】
ガソリン高騰、仕入高騰、家が売れない。【屋根工事】
仕入単価が毎月のように上がる。【造園、土木工事】
仕事はあるが人材が足りない。【電気工事業】
人手不足。【建設業】
従業員が不足しております。【塗装工事業、防水工事業】
新規案件がめっきり減ってしまった。また、予定していた見込み案件も立ち消えが増えた感。働き方改革や人員不足により、建設工期が1.2倍程度伸びている。その分の経費はもらえるわけではないので、収益は悪化するとみている。【管工事業】
顧客の設備投資が無い。【電気工事業】
令和7年になり、工事の受注(見積)件数が公共も民間も減少していると感じられる。仕入単価の上昇に比例して、請負金額も徐々に上昇しており、設備投資も様子を見ているのか今後の受注が減少とならないか心配であります。【土木・建築の施工】
公共工事は堅調だが、資材等仕入価格の高騰、所謂人手不足、人件費高騰が続く、引きつづき先行きが楽観できない。【建設、土木、遺跡発掘、リフォーム、修繕、清掃】
雇用関係部門に資金投入しているのですがなかなか成果がでない。【電気工事業】
人手不足と物価上昇。【工場、倉庫、住宅、リフォーム、アパートなど】
人材の不足。【エンジン設置、機械設置業】
忙しい、人が足りない状況がしばらく続くと思います。【立体自動倉庫、周辺機器のメンテナンス全般(点検、修理、改造工事)これらに付帯する設置工事、電気工事、更新工事】
インバウンドの回復及び投資抑制の反動もあり投資意欲は旺盛な反面、建設業界の深刻な人出不足は継続しており、計画的・戦略的リソースマネジメントが肝要。労務逼迫、資機材コスト動向を注視しつつ、更なる利益改善に取り組む必要がある。デジタル活用、人材育成、協力会社との連携など中長期を見据えた現場力の強化が必要。【土木、建築工事請負業・不動産事業】

小売業・卸売業
従業員の募集をしてもなかなか集まらない。【食肉】
コロナ禍以来ずっと継続している売り上げ減少は一向に改善せず。今年も新たな案件が無く期待薄。【各種光学レンズ輸出】
半導体関連大手企業の発注手控えによる売上不振が継続し厳しい状況が続いている。【非鉄金属材料、加工品の販売】

海外から仕入れて販売していたものが製造中止などで、販売品目が減少しており、この穴を埋めるのに苦慮している。【エアーコンプレッサー及びその周辺機器の卸売(一部自社で製造)】
円高により輸出(フィリピン向)が増加。【健康食品の卸売業】
大型受注案件が4年ぶりにない予定。【伝動機器商社】
巣籠もり需要も一回りし贅沢品を押さえている感じがする。定価が上がり単価がアップしているが、売上増が単価アップより少ないので売上件数が減っている。【住宅設備機器】
借入金金融利息の上昇。【木材、建材】
食料品、生活必需品の高騰が止まらない。毎日の食費を抑制することになり悪循環。【生鮮青果物卸売】
原料価格の急騰により品薄状態が継続し仕入れ数量の確保が困難な状況が継続されると、販売数量減少により供給が制限されること。【米穀の卸売業 飼料の卸売業 委託精米業】
海外取引に於ける代金回収問題。【機械、電気、電子、物流関連部品の販売設計、製作、検査、修理、保管、および物流業務】
業種業界により明暗がでてきている点。【工業用樹脂、ゴム、金属製品を主に扱う商社】
おととしより続いている原材料の異常な高騰。【介護用食品の開発・販売】
人材不足・高齢化。【LPガス及びLPガス関連機器販売】
食品価格の上昇から消費者の家計防衛意識は強く、嗜好品である花木の販売は低迷する一方で、天候不順や円安による仕入れ単価の上昇、そして採用競争力確保のための賃上げと、収益率は減少している。【花木全般】
SNSによる競争。【小売業】
最近の全ての価格上昇で生活費切り詰める、耐久消費財の買い物は後回し、先行き不安で給付金等が出ても預金回し、コンビニエンスストア、1円ショップ、中小規模のワンストップショッピングセンターがあれば便利でそれ以外のショップは無くなっても良いと思いますか？日本は中小並びに零細小商い業者がほとんど……何らかの形で救済できないものですか。【メガネ、補聴器、コンタクトレンズの問診、検査、販売、アフターメンテナンス】
個人の消費が落ちている。仕入れ値が上がっている。【プロテインのネット販売、自動車売買】
原料、包装資材、加工賃、人件費等の諸経費が軒並み増加。全体的に消費は回復しているように感じるが、上記理由により収益率は大幅に低下している。【健康食品の小売、卸し】
個人消費の低迷、法人の設備投資の低迷。【24時間風呂、風呂ろ過装置の販売、施工、メンテナンス、関連する消耗品の販売】
売り上げ件数は横ばい 仕入単価が上昇しているので販売価格に転嫁せざるを得ないことが残念。【生花販売 園芸用品販売】
社会保険料や税金が上がっている。物価が上がってる。お客様の購買欲が少ない。【家電販売、住宅設備機器、工事】
仕入単価の上昇がとまらない。【小売業】
法人の動きが悪い。NET 流れているのか。【はんこ作り】
老人世帯の増加。子供が地元をはなれて空き家になる。【LPガス、灯油、住宅リフォーム】
最近の消費者状況。【パン製造、販売】
仕入れ価格の上昇。【豚肉加工販売】
悪化。【建材販売】
値上げによる買い控え。【スポーツ用品】
通常のビジネスは大きな変動なく進んでいる。経費削減効果が出てきて採算はよくなってきている。【プロパンガス販売】
来客数の減少が年々勢いを増している。【IT機器、オフィス用品販売】
物価高による買い控えが起こっている 売上が上がる予測が立たない。【釣具販売】
取引先様が在庫を多く抱えており、生産が上がらないために在庫償却が進まないことから発注が減少している 来期の中旬までは我慢なのか……。【電子部品の販売】
仕入れ単価の高騰。【LPガス販売】
物価の上昇スピードが早く、お客様の買換えが進む。【衣食住】
アメリカ、トランプ政権による外国との取引(円安の影響)。【九州物産展】
売上不振や仕入単価上昇による業績悪化。【乳製品等の宅配】
若年雇用の難しさを痛感している。【自動車販売】

飲食業・サービス業
仕入が高い。【お酒 食事】
食材の単価上昇による利益率低下。【フランス料理、サービス】
1、食材費の上昇が止まらない。2、電気料金を抑える為、東電→ハルエネ→東名と、切り替えをしたが、逆に上昇して困惑している。【居酒屋経営】
物価高による 去年から続く消費低迷、止まらない物価上昇、仕入れコスト上昇。このところお店の閉店や閉業がなど増えて目立ってきている。アメリカの関税による経済への影響が心配。【海鮮居酒屋】
全ての仕入れが上昇、インフラ系費用上昇(ガソリン、電気、ガス、水道等)。【居酒屋、酒、刺身、煮物等つまみ】
店舗立地によるが、インバウンド効果好調。【飲食店 うなぎもとやま 焼鳥はつらいよ】
可処分所得の減少による個人消費の低下、及び、物価上昇による多重複合要因による。【居酒屋】
不景気。【食堂・ケータリング】
全て物価高のため、価格の安い仕入先を選んだりする事が多い。【移動販売】
コロナより改善されない。【飲食業、和食、そば、うどん】
値上げが急速すぎる。【なし】
特に感じているのはやはり物価高騰の影響。お米が特にひどい。【焼肉、韓国料理】
働く人が集まりにくい。【ラーメン店】
物価高、従業員人件費高。【中華レストラン】
人件費が上昇しているにもかかわらず人手不足。すべての材料の上昇。【ラーメン店】
雰囲気は良くなってきました。後は消費行動に向かわせる、良いサービスの拡大ですね。既存ではない新しいサービス。【駐車場清掃管理、軽配送】
雇用を増やしたいが、資金が足りず雇用するのが難しい。【宅配、企業様集配】
物価の上昇に便乗してなのか、燃料の高騰、国の対策終了など、非常に厳しい。【自動車部品】
引き続きですが、従業員不足です。当たり前のことですが、動かない車両も保険代、税金、車検、維持メンテ代、年間にしてかなりの出費が、予想されます。今期、今のところマイナス傾向に感じます。【荷主ご依頼の物品を依頼先に納品】
人手不足。【鋼材、木材の運送】
景気の先行きが不安 仕入(燃料)の価格が不安定で高い。【機械部品 電気設備機械 建設機材 舞台設備他】
受発注先の状況→飛び込みでの依頼多い。雇用状況→経験者が著しく減り、未経験者増。【運送】
辞めたい。【一般運送】
仕入価格の上昇。人材不足。【路線便配送】
人手不足。【海外引越の現場作業】
円安での輸出梱包作業が減少。理由が分からない。【こん包】
仕入単価の上昇。【新聞、医療雑貨】
サイバーセキュリティに関する認識が向上し、対策の推進が進む事が期待されるが、主に中小企業はその重要性を理解できず対策が遅れが出るため、受注が遅れる可能性がある。【IT資産管理業務改善支援、IT資産管理システムの開発と提供、サイバーセキュリティ対応支援】
昨年、いろんな言い訳をされて先注(納品後に)となったケースがあり、とても残念なことがあった。【ブランドデザイン、HP制作】
諸経費増加。【webシステム開発とホームページ制作の請負】
賃上げと景況感のギャップ。【ソフトウェア・情報通信業】
諸物価の高騰により最低限の値上げはしたが、経費増加を理由に広告放送料の値上げをすることは理解を得にくい。また、当社のような小企業の場合は、給与を大幅にアップすることは難しく、採用が非常に厳しい。【放送業】
業界景況感、売上単価の見直し(上昇)、仕入れ単価の見直し(上昇)、技術者不足等、ある意味それぞれ課題がある中で、固定化してきた印象。【ソフトウェア開発受託・SES、インフラ構築受託・SES】
建築費の高値不変のため不動産活用、建築工事の全体的な低迷。【不動産コンサルタント、仲介業】
単位を上昇したい。【観葉植物レンタル業】
金利上昇、物価高による消費者動向。【不動産賃貸管理、仲介、売買】
仕入物件情報の不足、及び仕入単価上昇。【不動産買取再販】

物価上昇による全費用の増加。【不動産賃貸全般】
物価高にも関わらず収入が上がらない事による消費低迷。【売買、賃貸、管理】
諸物価上昇にもかかわらず家賃及び管理費等の値上げが出来ない。【不動産賃貸・媒介・売買・管理】
金利上昇による購買意欲の低下。【賃貸不動産管理・仲介、不動産売買の仲介、宅地開発企画・販売】
社会情勢をみながら自己判断でこつこつやるだけ無理はしない。【不動産業・物品賃貸業】
金利上昇が心配。【不動産業・物品賃貸業】
売却益の二極化がより顕著(利益とれるのと取れないのと)になってきて、これが続きそう。【不動産売買】
金利が上がり、住宅ローンの借入に影響すると思われる。景気は悪くなると思います。【宅地分譲、土地建物仲介、賃貸物件管理他】
不動産、土地建物の値段高止まり、販売不振のようです。【不動産賃貸管理仲介】
仕入れ単価の上昇。【不動産売買仲介、不動産賃貸仲介】
物価高による管理コストや修繕コストの増加に対して、賃料水準の上昇が連動しておらず、今後の採算への影響を心配している。【不動産賃貸業】
不動産の老朽化に対する支出が過大になっている。【不動産の賃貸、人材派遣事業等】
お客様の財布のひもが固い感じがします。【便利屋 庭木(剪定、伐採、伐根、草刈りなど)、水道関連(水漏れ、詰まり、水栓交換など)、電気関連(交換や設置)、ハウスクリーニング(浴室、キッチン、エアコン、換気扇、玄関、外壁、屋根など)、プチリフォームからフルリフォームまで、犬の散歩、買い物代行、室内の模様替えなどの手伝い、お部屋の片づけの手伝い、手すりの設置など】
高齢の方が多く、客単価としてはあまり変わりません。【美容室】
来店サイクルが長期になった。高齢者のお客様は来店されなくなった。【美容業】
基本的に接触が必要な業種の為、感染症などの流行に未だ影響を受けやすい。(対策が難しい)。【リラクゼーション業】
物価上昇 賃金アップ。【美容室の経営】
仕入れ、光熱費、家賃の上昇で価格の値上げをしないといけない。【美容業】
1人1人の来店サイクルが伸びている(3日に1回、4日に1回、5日に1回)。【一般理美容】
最低賃金の上昇がとてつらいです。【服飾リフォーム】
為替変動幅の大きさ。乱高下による読みにくさ。【旅行業】
景気の悪化、物価上昇、各種料金の値上げ。【経営コンサルタント】
米国トランプ大統領の発言リスク、投資ファンド拡大で資金優先の時代。【プレス機械関連の自動化・システム化と安全評価、品質保証活動】
物価の上昇、経費増加。【会計士・税理士事務所】
景気悪化と増税による企業数減少。【社会保険労務士業】
顧問先の人手不足。【労働保険・社会保険】
インボイス、最低賃金上昇、ガソリン価格による業績コストUP。【会計事務所】
良い人材の確保。【行政書士、社会保険労務士】
賃金が高い。【税理士事務所】
営業不足の為、新規顧客の獲得が少なかった。【貿易業、輸入品の許認可申請代行】
土地売買の減少、住戸着工の減少。【土地調査測量・表題部の登記】
得意先の減少、破産者がちらほら発生。【専門・技術サービス業】
価格転嫁のタイミングを考えている。【社会保険労務士事務所】
主に公共事業がメインであり公共事業の減少は響く。【専門・技術サービス業】
電気メーカー及び電子機器メーカー共に新規開発が停滞。【電子機器開発請負業】
顧客の状況変化。【機械設計】
従業員が圧倒的に不足しており、広告を出しても来ない時代となっている。【建築設計】
今年は売り上げをあげていきたい。【古いリドンブランドの販売、絵本の読み聞かせ、カラーコンサルタントなど】
雇用がむずかしい。【コンプレッサー修理】
社会情勢の変化。日銀利上げ。トランプ大統領。為替円安。【カーコーティング、カーフィルム、ルームクリーニング、钣金塗装、車検】
先行きの景気の判断が難しい。【フォークリフト・ショベルローダー等リース、レンタル、修理、点検】
設備費の増加はあるものの、売上単価増加している。【自家用電気工作物保安業務受託】

とにかく、ありとあらゆる物価が上昇している 常に変動する物価上昇に対して価格転嫁出来ず個人消費の低迷により家庭の優先順位を考えると非常に難しい。原材料費は日々、高騰を続けている。円安の影響で海外の原材料費の仕入れに苦慮している。他に、ガソリン価格の高騰、事務用品の高騰、電力の高騰、水道光熱費の高騰等負のスパイラルな状況及び環境に面している。【墓参代行、墓石清掃、墓石クリーニング、墓石コーティング、墓石メンテナンス、重要文化財、文化遺産等の石造物の特殊清掃、埋葬業務】
機械・器具・機材単価高騰により受注金額の値上げ幅に追いつかない状態です。【高圧洗浄作業】
ガソリン代値上げは厳しい。出張するので、利益に直結する。【出張メンテナンス】
人手不足により業務を断っている。【自動車整備】
DXの推進、人材の採用および次世代人材の育成 新規取引先の開拓。【経理・人事のシェアサービス】
アメリカ大統領の動向。【廃棄物処理】
世間の賃上げムードが昨年以上となり、その対応に苦慮。【人材派遣業】
売上げが中々増加しない状況。【人材総合サービス】
高齢者が多いので病欠や突然の退社が発生し、都度求人対策に悩まされます。【ビル管理、ビルメンテナンス業】
人手がもう少し欲しいところだが、状況はあまり変わらず。応募者も割と少ない。【再生資源卸売 廃棄物処理】
最賃上昇に伴う顧客の理解は得られるが、実際に契約金に反映はされにくく収益性は落ち込んでいる。【清掃・警備・設備保守】
従業員の高齢化がすすみ若返りを図りたいところであるが、若年層の獲得が困難。中途採用(若年層以外)も困難な状況。先々の経営に不安を感じている。【産業廃棄物処理業・収集運搬業】
人員不足、物価高騰による経費上昇。【廃棄物処理、建物清掃業、工業薬品販売業】
従業員確保の難しさ。【事務代行、紙製品・フラワー・雑貨製作】
年々最賃が上がっている為、採用募集をするに当たり、最賃以上の時給でないと人材確保がむずかしい。【ビルメンテナンス業】
人件費や物価上昇によりコストが増加しており、厳しい経営環境にある。【マンション日常清掃業務】
技術者が不足している。【その他のサービス業】
自治体や企業の研修がまだコロナ前の状況にまで戻っていないように感じられます。(徐々に増えてきていますが)【研修講師:①講演「江戸の知恵を今に活かす」「江戸の知恵を現代の経営に活かす」②ワークショップ(エニアグラム)「エニアグラムで自己理解と人間関係づくり」「エニアグラムで自己理解と親子関係づくり」、コミュニケーション研修「話し上手・聞き上手の基本」など】
新規開拓の困難。【外国人に対する日本語教育事業】
アルバイトも雇いたいのが赤字だから無駄なお金は使いたくない。【その他の業種】
食品関係の値上げに対し売上げが上がらない。【介護】
治療院業界は、万年人が不足している。【整骨院】
金額が上がることに納得している。【鍼灸院】
個人消費者の出費控えが特に感じています また、企業等からの受注金額は変わらずとも、仕入れ、経費、人件費等各種のコストが増加しているため、利益の減少が著しい。【イベント企画】
介護利用希望者は増加傾向にあるが、そのサービスを提供するヘルパーが不足しているため、新規の取り込みに制限がある。【訪問介護】
人材の確保。【ポスティング業】
国政の怠慢。【中学受験専門塾】
物価上昇。【動物病院】
人手不足が深刻。どんな媒体に出しても効果がない。【保育事業】
競争激化による顧客の減少。【訪問看護】
仕入れ価格の上昇分を価格転嫁出来ないでいる。又人件費の上昇に頭を悩ませている。【協同事業協同組合】
あらゆる手を尽くしているものの、求人に対する応募者が全く来なくなりました。【ペストコントロール】
トランプ大統領就任による日本経済の状況が心配:中国の不況が日本に及ぶ可能性も心配。かつてアメリカが日本をたたいたように今後中国を徹底的にたたくような気がする。【障害福祉サービス 厚生労働省認定:障害者就労支援B型事業所(主に精神障害者の就労支援)】
物価高騰。【障害福祉(就労支援、他)】
男性の求人応募数が少ない。【障害福祉サービス】

巷で言われている通り、家計の中の教育関連費用は聖域とは言えなくなったことを実感。【その他の業種】
仕入れ単価の急激な高騰が継続しており、法人の利益を圧迫している。【保育所の運営・設置】
エネルギー価格上昇に伴う経費の増加。【中小企業金融】
金利上昇による市況の変化、影響。【金融業】

経営上の問題点

単純集計

経営上の問題点(3つまで回答可、n=727)

	回答割合	
売上不振	35.6%	259
受注単価・販売価格の低下	8.9%	65
収益率の低下	30.3%	220
個人消費の低迷	13.9%	101
販売先の減少	8.3%	60
大型店の進出	1.0%	7
チェーン店等との競争激化	0.0%	0
公共工事の減少	3.7%	27
民間工事の減少	3.3%	24
仕入単価の上昇	47.2%	343
円安の影響	8.8%	64
円高の影響	1.7%	12
代金回収困難	1.4%	10
諸経費の増加	27.2%	198
従業員(含、臨時)が過剰	1.5%	11
従業員(含、臨時)が不足	27.6%	201
設備不足・老朽化	14.6%	106
特になし	5.2%	38

製造業

今回調査を見ると、「仕入単価の上昇」「売上不振」が増加し、「円安の影響」「従業員が不足」が減少した。製造業でのコスト高は依然として深刻な状況が続いている。

	R6年1~3月 n=153	R6年4~6月 n=153	R6年7~9月 n=209	R6年10~12月 n=204	今回調査 n=178
売上不振	37.3%	36.6%	44.5%	46.6%	52.8%
受注単価・販売価格の低下	11.2%	10.5%	11.5%	8.3%	9.6%
収益率の低下	26.7%	33.3%	33.5%	30.4%	31.5%
個人消費の低迷	1.2%	3.3%	4.3%	5.4%	2.8%
販売先の減少	9.3%	5.2%	10.0%	8.8%	9.6%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
チェーン店等との競争激化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	1.2%	2.0%	1.0%	0.5%	0.6%
民間工事の減少	1.9%	0.7%	2.4%	2.5%	1.1%
仕入単価の上昇	47.2%	49.0%	48.8%	50.0%	54.5%
円安の影響	16.8%	16.3%	16.7%	13.7%	12.9%
円高の影響	1.9%	0.7%	1.9%	2.5%	2.2%
代金回収困難	0.0%	0.0%	1.0%	1.0%	0.0%
諸経費の増加	29.2%	26.8%	20.6%	19.6%	24.7%
従業員(含、臨時)が過剰	0.0%	1.3%	1.4%	1.0%	2.2%
従業員(含、臨時)が不足	27.3%	28.1%	23.4%	21.6%	16.9%
設備不足・老朽化	14.9%	18.3%	19.1%	24.0%	24.7%
特になし	6.8%	3.9%	4.3%	6.4%	2.8%

経営上の問題点

建設業

前期と比較して、「収益率の低下」「仕入単価の上昇」「受注単価の低下」が増加し、「売上不振」「従業員が不足」が減少した。売上は悪くないがコスト高で収益性が悪化しているようである。

	R6年1~3月 n=153	R6年4~6月 n=153	R6年7~9月 n=157	R6年10~12月 n=172	今回調査 n=140
売上不振	24.2%	14.1%	21.0%	23.8%	18.6%
受注単価・販売価格の低下	14.7%	14.1%	13.4%	7.0%	15.7%
収益率の低下	28.4%	35.3%	24.2%	24.4%	32.1%
個人消費の低迷	7.4%	5.9%	5.1%	5.2%	7.9%
販売先の減少	4.2%	5.9%	5.1%	5.8%	6.4%
大型店の進出	0.0%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%
チェーン店等との競争激化	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	14.7%	12.9%	7.0%	12.2%	12.9%
民間工事の減少	11.6%	12.9%	15.9%	15.7%	13.6%
仕入単価の上昇	44.2%	55.3%	53.5%	51.7%	57.1%
円安の影響	7.4%	2.4%	6.4%	2.9%	2.1%
円高の影響	1.1%	0.0%	3.2%	1.2%	1.4%
代金回収困難	2.1%	0.0%	3.8%	2.9%	1.4%
諸経費の増加	23.2%	27.1%	26.8%	22.1%	25.7%
従業員（含、臨時）が過剰	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.7%
従業員（含、臨時）が不足	35.8%	42.4%	47.1%	48.3%	42.9%
設備不足・老朽化	5.3%	4.7%	7.0%	5.2%	6.4%
特になし	8.4%	5.9%	4.5%	6.4%	4.3%

小売業・卸売業

「仕入単価の上昇」「個人消費の低迷」が増加し、「売上不振」「販売単価の低下」が減少した。値上げなどで客単価は上がっているが、消費者のマインドはあまり良くないようである。

	R6年1~3月 n=153	R6年4~6月 n=153	R6年7~9月 n=123	R6年10~12月 n=121	今回調査 n=109
売上不振	40.7%	41.1%	34.1%	41.3%	33.9%
受注単価・販売価格の低下	4.7%	8.9%	8.1%	6.6%	3.7%
収益率の低下	30.2%	35.6%	20.3%	28.9%	26.6%
個人消費の低迷	30.2%	30.0%	31.7%	24.8%	33.0%
販売先の減少	18.6%	17.8%	20.3%	13.2%	15.6%
大型店の進出	2.3%	1.1%	0.8%	2.5%	4.6%
チェーン店等との競争激化	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	1.2%	1.1%	0.8%	0.8%	1.8%
民間工事の減少	0.0%	3.3%	4.9%	0.0%	0.9%
仕入単価の上昇	53.5%	41.1%	47.2%	43.0%	50.5%
円安の影響	16.3%	25.6%	13.8%	12.4%	16.5%
円高の影響	1.2%	1.1%	0.8%	5.0%	1.8%
代金回収困難	1.2%	1.1%	1.6%	2.5%	0.9%
諸経費の増加	22.1%	18.9%	24.4%	18.2%	18.3%
従業員（含、臨時）が過剰	0.0%	0.0%	0.8%	2.5%	0.9%
従業員（含、臨時）が不足	16.3%	15.6%	22.0%	22.3%	22.9%
設備不足・老朽化	9.3%	13.3%	13.0%	9.9%	12.8%
経営上の問題点		1.1%	4.1%	3.3%	2.8%

飲食業・サービス業

「売上不振」「仕入単価の上昇」「収益率の低下」が増加し、「従業員が不足」が減少した。売上が上がっておらず、人手不足感は一息ついているようである。

	R6年1~3月 n=153	R6年4~6月 n=153	R6年7~9月 n=209	R6年10~12月 n=337	今回調査 n=300
売上不振	30.9%	27.6%	29.6%	27.0%	34.0%
受注単価・販売価格の低下	6.4%	4.4%	6.6%	5.0%	7.3%
収益率の低下	28.0%	26.3%	27.2%	29.4%	30.0%
個人消費の低迷	14.4%	17.1%	15.6%	16.3%	16.3%
販売先の減少	9.3%	5.3%	6.3%	6.8%	5.7%
大型店の進出	0.8%	0.9%	0.0%	0.9%	0.7%
チェーン店等との競争激化	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共工事の減少	1.3%	1.8%	1.5%	1.2%	2.0%
民間工事の減少	2.1%	1.8%	2.4%	0.6%	0.7%
仕入単価の上昇	30.9%	30.7%	27.8%	35.0%	37.0%
円安の影響	7.2%	7.0%	8.1%	6.5%	6.7%
円高の影響	0.8%	0.9%	2.4%	1.2%	1.3%
代金回収困難	3.0%	2.2%	1.5%	0.9%	2.3%
諸経費の増加	30.1%	26.3%	27.8%	31.5%	32.7%
従業員（含、臨時）が過剰	1.3%	0.0%	0.9%	0.6%	1.7%
従業員（含、臨時）が不足	30.1%	32.5%	32.9%	35.3%	28.7%
設備不足・老朽化	11.9%	11.8%	15.6%	13.9%	13.0%
特になし	11.0%	13.6%	12.3%	9.5%	8.0%